

JA安芸

農業振興対策本部
(082) 855-6176



農協だより

Vol.93

URL : <http://www.ja-aki.jp>

平成 26 年 5 月

稲作講習会の開催日

場 所 : JA安芸各支店
 時 間 : 午前の部 10 時～・午後の部 1 時 30 分～
 講習内容 : 田植後の管理と本田防除について～

日時	6月9日(月)		6月10日(火)		6月11日(水)		6月12日(木)		6月13日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀 2階	中須賀 2階	東海田 2階	阿戸 2階	上瀬野 3階	中野 2階	瀬野 2階	熊野 2階	追分	初神 老人集会所

教材本の贈呈



JAバンクが全国の小学校に贈呈している補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を今年も海田・熊野・坂・広島市教育委員会を通じて管内18校の児童へ贈呈しました。子供たちに食と農業の繋がりを学んでもらう「JAバンク食農教育応援事業」の一環で、平成20年から実施しています。社会科や家庭科など農業に関連した授業の補助教材として有効に使われています。

バケツ稲づくり



次世代を担う子供たちに、バケツで稲を育てるという一連の作業を通じて農や食に関心を持ってもらおうとJAグループ主催で取り組みを行っています。種もみ、肥料、バケツ稲づくりマニュアルを無料で配布しました。昨年に続き横浜小学校、小屋浦小学校、さらに今年から海田小学校でも取り組まれます。



講習会を開きました！



4月2日より瀬野川農事研究会、スマレ会、ススキグループ、中野野菜生産者会、ブドウ部会を開催いたしました。

春野菜苗の植付け準備から初期管理、花の作付けなどの講習会をおこないました。ブドウ部会では発芽後の管理からジベレリン処理や房作り、袋かけまでの勉強会をおこないました。また、微量元素欠乏の発生も毎年見られるため、肥料の要素欠乏や過剰などの症状の写真を見て発生圃場では今後の対応なども検討しました。

育苗センターでは・・・

春野菜苗出荷

4月15～18日に12月より育苗した春野菜苗を各支店に出荷いたしました。

長ナス	7,311鉢	中長ナス	1,870鉢
ピーマン	3,192鉢	キュウリ	6,371鉢
ミニトマト	1,740鉢	トマト	4,400鉢
シシトウ	360鉢	スイカ	1,280鉢
アスパラ	415本		



水稻苗出荷

4月1日に第1回目の播種を行い、4月11日～13日と出荷をいたしました。育苗センターの苗は種子消毒を60度の温湯で行い農薬を省いております。4月11日には、2回目の播種を行い、22,23日に出荷をいたしました。6月上旬まで順次生産を行います。現在の水稻苗予約状況は、17,800箱です。育苗センター職員一同、良品質苗をみなさまにお届けするよう頑張っております。



5月 営農メモ

水 稲

○本田の準備

代かきは田面を均平にし、苗立ちの良い硬さにするとともに除草剤の効果を高めることができます。このとき練り過ぎますとガス障害のため初期成育に悪影響を及ぼします。一般土壌では田植え4~5日前に代かきをすると土の固さが安定し良い状態になります。

○基 肥 基肥は地力で足りないチッソ・リン酸・カリを補給し、必要茎数を確保するために施用します。稲作ごよみの施肥例を参考に、昨年の水田ごとの生育状況を考慮し、施肥設計します。昨年休耕した水田や野菜あとで作る水田では基肥を少なめか無しにします。基肥一発型のJB575Mは、コシヒカリなどの早生品種に、JB555Mは、ヒノヒカリなどの中生品種に使用でき、追肥・肥穂が不要で省力ができます。穏やかに効き、葉色は薄めに生育します。(天候によっては穂肥が必要な場合があります。)

○田 植 え 大株植えや密植は過繁茂となり、収量・品質低下や倒伏の原因になるばかりか消えてゆくむだな茎も多くなり、思った程収量・品質は上がりません。1株当たり3~5本とし、植付け間隔は条間30cm×株間16.5~18cmを目安にしてください。ただし、株の張りにくい田ではやや狭めに植付けてください。補植は3株以上欠株の場合のみとし、1~2株程度の欠株は、その周囲の株張りが良くなるのでほとんど影響しません。

○箱 施 用 剤 圃場や品種の適したものを選び、なるべく当日の施用は避け登録の範囲内で早めに散布した方が効果が高まります。除草剤と間違えないように散布前にもう一度確認してください。

○田植え後の水管理 苗が活着するまでは、水を溜めてかけ流しを避け、積極的に水温を上げます。活着後は、ときおり水を落として土中に空気を入れ、根を元気にします。夜間や日中でも曇って寒い日や風の強い日は、やや深水とします。

○活着期~分けつ期 活着して葉色が出てきたら、3~4日おきに水を落とし、田がわくのを防ぎます(間断かんがい)。ただし、漏水田で田干しのやりすぎは雑草が発生するので注意してください。

○追 肥 分けつを促進するとともに、穂肥まで下限葉色を維持します。コシヒカリ、ココノエモチは、田植え後7日、ヒノヒカリ、あきろまんは、田植え後10~14日頃中間追肥を施用します。

○除 草 剤 法改正により、初期剤の登録が代かき後~田植前7日前または田植直後~ピエ1葉期ただし、田植後30日までに変更になりました。必ず守ってください。実際には代かき後7日間もおくと田が硬くなり過ぎ、浮苗や浅植えの原因になりますので、田植後に雑草の発芽が確認出来てからの散布がお勧めです。その際、薬液が稲に付着しても問題はありません。その後の水管理は従来どおりです。

※散布後7日間は落水、かけ流しをしないで下さい。

野 菜

春苗管理

トンネル撤去 連休明けになると春苗のトンネルを撤去し、直ちに支柱立て・誘引を行い木を固定します。トンネル撤去後は乾燥しやすいので晴天が続けば4日おきに灌水を行います。

整枝 初期は木の伸長を促すため、晴天日に下葉の付け根から出る不要なわき芽を除きます。

追肥 定植後20日頃から追肥を開始します。1回当り8-8-8では40g程度で15~20日間隔で施します。位置は始め株元近くに施しますが、生育に従って株元から離れた場所に施します。

摘果 ピーマンやなすは5月下旬には一番果が付きます。生育が良好であればそのまま大きくしますが、木がしっかりしていない場合は摘果を行い、木の伸長を図ります。きゅうりでは本葉5枚までの実は早目に取り除き、木の伸長を図ります。トマトでは第1花房は4玉に、以降は1房4~5玉に摘果します。傷果や変形果は早目に除きます。

播種できる物 連休明けより、きゅうり・うり類・えだまめ・いんげんまめ・スイートコーン・オクラなどの播種が容易となります。オクラの場合種皮が硬いので一晩水に漬けた後に播種すると発芽しやすくなります。まめ類は播種後に灌水は行いますが、発芽までに過湿になると種の腐敗の原因となりますので灌水は控えます。

・えだまめ 7cm間隔の溝を切り、1~2cm間隔に播種します。鳩による被害が予想されるため網などでトンネルしておきます。播種後15~20日頃の本葉出始め時に20cm間隔に植替えます。この時、軸が長い場合には双葉まで埋めて苗がぐらつかない様にします。収穫期間が短いため、多く植付けする場合は10日間隔で3回程度に分けて播種すると長期収穫ができます。

・いんげんまめ 1カ所に3粒程度播き、1カ所2本に間引きます。つる有り種では木が大きくなるまでにネットなどを張っておきます。

・オクラ 直播・移植栽培とも1カ所に3粒程度播種します。3本立ての場合生育が進むと株元が過繁茂となるため、収穫開始後は実が付いている下1枚程度の葉を残し、下葉やわき芽を除きます。

病害虫 中旬より炭疽病・うどんこ病・ウリハムシ・ハダニ・テントウダマシの被害があります。

アブラムシ アディオン乳剤・ジェイエース水溶剤・トレボン乳剤など

ウリハムシ マラソン乳剤・アルパリン顆粒水溶剤など

ハダニ オサダン水和剤25・マラソン乳剤など

テントウダマシ アディオン乳剤・オルトラン水和剤・スミチオン乳剤など

うどんこ病 ダコニール1000・トップジンM水和剤・モレスタン水和剤・トリフミン水和剤など

炭疽病 ダコニール1000、トップジンM水和剤など

果 樹

●なしの摘果について 満開から30日以内の幼果期に行います。果実数を制限して果実肥大を図ります。摘果の程度は葉数約30~40枚あたり1果が基準です。残す果実は、赤ナシでは大きな果実になるもの、青ナシでは良い形状の果実になるものを重点におき1果そうの中で基花と先花の両極端を摘果して中間の果実から選ぶようにします。1回目の摘果は1果そうに1果とします。2回目の摘果は、1回目の摘果の10~20日後に行います。1樹あたりの適正着果数に制限します。*(1花そうとは、一つの花芽のかたまりで中心花がひとつ咲き、ついで4~6個の側花が咲きます。中心花と側花をまとめて1花そう⇒1果そう)

●ももの摘果について 早いほど効果はありますが、危険も多いので普通開花2~4週間後の不授精果の区別ができるようになってから行います。軽い予備摘果のあと5月中・下旬の袋かけ直前に仕上げ摘果を行います。摘果程度は最終的に葉数約20枚あたりに1果が基準です。(長果枝は1本に2果・中果枝は1果・短果枝は2~3本に1果の割合)摘果を強くすると核割れを助長します。核割れは一般的に早生種に発生しやすい。核割れの予防をするためにも適期に摘果を実施して急激な果実肥大をさせないようにします。